

---



---

 学 会 記 事
 

---



---

## 第 69 回新潟画像医学研究会

日 時 平成 26 年 11 月 1 日 (土)  
午後 2 時～  
会 場 新潟東映ホテル 2 階  
「朱鷺の間」

## I. 一 般 演 題

## 1 RA 診療における関節エコーの有用性

藤澤 純一・近藤 直樹\*・工藤 尚子\*

新潟大学大学院医歯学総合研究科  
医師キャリア支援センター  
同 整形外科学分野\*

【目的】リウマチ日常診療での、診断や疾患活動性・薬効の評価時における関節エコーの有用性について、症例をもとに検討すること。

〔症例 1〕42 歳，女性。1 年前から右中指，左環指 PIP の疼痛・腫脹が徐々に増悪し，当科紹介受診。両手指・手関節の腫脹・圧痛あり。炎症反応は陰性だが RF，ACPA は陽性。X 線所見では明らかな骨びらん，骨萎縮なし。関節エコーでは両手関節伸筋腱の腱鞘滑膜に滑膜肥厚とパワードプシグナルあり。RA と診断し MTX を開始した。

〔症例 2〕60 歳，男性。MTX8mg/週で加療中，症状徐々に増悪。control 不良となり紹介受診。CRP1.91mg/dl。RF，抗 CCP 抗体陽性。X 線では両側尺骨頭のリウマチ性変化があるが，時間経過までの情報なし。関節エコーでは，総指伸筋腱周囲の腱鞘滑膜，尺骨頭周囲の関節内滑膜の肥厚とパルスドプシグナルがみられた。RA の活動性増強と判断し，MTX を 10mg/週へ増量した。

〔症例 3〕85 歳，女性。4 年前より多発関節痛があるも偽痛風として加療されていた。4 か月前か

ら症状増強し，炎症反応も上昇してきたため当科紹介。CRP7.10mg/dl。RF，ACPA は陰性。X 線所見では右手関節に骨びらん，関節裂隙狭小化あり。関節エコーでは左手関節で伸筋腱鞘滑膜の肥厚とパルスドプシグナルをみとめ，左示指 MP 関節では，X 線所見では判然としなかった明瞭な骨びらん像を認めた。RA と診断し，MTX ついで Golimumab を開始した。

【結論】診断や疾患活動性・薬効の評価時において，さらには患者との信頼関係を構築するツールとして，関節エコーは有用である。

## 2 生物学的製剤における骨破壊抑制効果—自験例での検討

近藤 直樹・荒井 勝光\*・藤沢 純一\*\*  
遠藤 直人

新潟大学大学院医歯学総合研究科  
機能再建医学講座整形外科学分野  
県立中央病院整形外科\*  
新潟大学医歯学総合病院  
医師キャリア支援センター\*\*

【目的】生物学的製剤が骨関節破壊にどの程度影響を与えるか検討すること。

【対象と方法】関節リウマチ患者 12 例で平均 52 歳 (29-65 歳)，女性 10 例，罹病期間は平均 8.6 年。メトトレキサートは 8 例で平均 5.2mg/週，プレドニゾン 3 例で平均 1.7mg/日。使用生物学的製剤はインフリキシマブ (IFX) 4 例，エタネルセプト (ETN) 6 例，トシリズマブ (TCZ) 2 例だった。導入直前と導入後 2 年経過時の手のエックス線を比較し，変化なしを NC，進行を P，改善を I としてその内容を含めて検討した。

【結果】12 例 24 手のうち NC は 18 手 (うち両側とも NC は 7 例)，P は 4 例 5 手，I は 1 例 1 手であった。骨糜爛の出現が 2 手，手関節尺側偏位の進行が 2 手，小指 MP 関節脱臼が 1 手であった。進行例は，ETN2 例，IFX，TCZ 各 1 例であった。手関節裂隙の拡大 (TCZ 症例) を改善と判断した。